

# 埋文よこはま26

- ・金沢区の中世遺跡
- ・横浜の遺跡展  
—縄文時代中期の横浜—
- ・インフォメーション



上行寺東やぐら群遺跡（昭和59・61年発掘） 右奥の3基が現在も残されている。

## 金沢区の中世遺跡

—中世都市鎌倉の外港・

六浦庄の考古学的景観—

横浜市金沢区かなざわはっけいの金沢八景を中心とする地域は中世では「六浦庄」むつらのしょうと言って、鎌倉の外港として栄えたところです。現在、横浜市では神奈川県・鎌倉市・逗子市と共同で、「武家の古都・鎌倉」の世界遺産登録を目指しており、この地域にある「称名寺」しょうみやうじと「朝夷奈切通」あさいなきりどおしの二ヶ所が世界遺産の「重要な要素」として選定されました。

また、この他にも鎌倉時代まで遡る文化遺産が数多く存在し、中世都市鎌倉の外港とその周辺域の様子を今に伝えています。本号ではとくに発掘調査によって明らかにされた遺跡を中心に中世六浦の姿についてご紹介します。

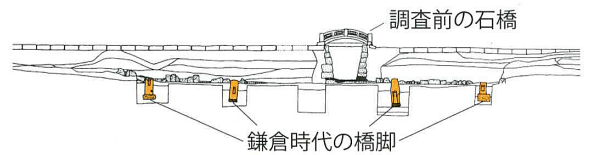
→次頁へつづく

## ◆称名寺境内旧伽藍・庭園苑池の発掘調査

称名寺は金沢北条氏の菩提寺として、金沢実時<sup>かねざわさねとき</sup>によって創建され、実時の孫の貞顕<sup>さだあき</sup>の時代に大伽藍へと整備されました。この最盛期の伽藍は「称名寺結界図<sup>けっかいず</sup>」によって様子を知らることができますが、昭和53年よりはじまった保存整備事業に伴う発掘調査によって、貞顕時代の庭園苑池遺構が実に600年ぶりに姿を現しました。この発掘調査でとくに大きな成果は、整備前に池にかかっていた小さな石橋の下層から、結界図に描かれた大規模な反橋<sup>そりばし</sup>の橋脚部分が発見されたことです。この遺構をもとにして現在の称名寺の浄土式庭園の池にかかっている、優美な赤い反橋を復元することができたのです。



現在の称名寺と復元された“反橋”



称名寺苑池の断面図（部分）



上行寺東やぐら群遺跡（浄願寺推定地）  
手前に建物跡、奥にやぐらがある。

## ◆上行寺東やぐら群遺跡（浄願寺推定地）

現在の金沢八景駅の南西300mの丘陵上に立地。西側の谷に上行寺があるためこの遺跡名がつけられました。昭和59・61年に発掘調査され、やぐら（後述）43基とともに念仏堂とみられる建物跡などがみつかりました。

源頼朝と文覚上人が六浦の山中に創建したと伝えられる浄願寺はその後の戦乱で焼失し、場所がわからなくなっていました。しかし、江戸時代にはその位置が「瀬戸明神と上行寺の間の山の上」と伝えられており、まさにこの上行寺東やぐら群遺跡がその跡であると考えられています。開発による調査でしたが、幸いやぐら3基が保存され、さらに左写真の地点が隣接地に復元展示され、現在も見学することができます。

## ◆やぐら群

“やぐら”とは崖面に<sup>くけい</sup>矩形に掘り込まれた横穴で、中世の埋葬形態の一種とされています。中世都市鎌倉の周辺に濃密に分布しており、鎌倉の外港として栄えた六浦やその後背地である釜利谷周辺にも数多く存在し、発掘調査がおこなわれた事例もかなりあります。

その数は確認されているだけでも金沢区内で300基をゆうに超えており、その分布は中世六浦の景観を考える際の重要な一要素といえるでしょう（次頁図参照）。



調査中の六浦大道やぐら群 1号やぐら  
中に石塔類が放り込まれており、その図面を作成しているところ。

## ◆磨崖仏

鎌倉時代からある白山道・六浦道の二つの道の傍らの崖に、今も二つの磨崖仏<sup>しらやま</sup>の痕跡をみることができます。これらはいづれの手によって彫られたのかは定かではありませんが、鎌倉時代に遡るといふ説もあります。六浦道沿いの「鼻欠け地蔵<sup>はなか</sup>」と呼ばれる磨崖仏はだいぶ風化が進んでいるものの、今も金沢八景から大船に抜ける環状4号線のすぐ脇にたたずみ、バス通りの往来を見守っています。



六浦道沿いの鼻欠け地蔵



### ◆中世六浦庄の歴史的景観

現在の横浜市金沢区は鎌倉時代には「六浦庄」と呼ばれ「六浦郷」・「富田郷」(のちの蒲里谷郷)・「金沢郷」・「富岡郷」の四つの郷がありました。朝夷奈切通が開削される以前は、金沢北条氏の館は蒲里谷(釜利谷)にあったようです。蒲里谷は白山道によって山中を抜けて鎌倉に通じていました。その後、朝夷奈切通が開削され、金沢郷へ本拠地を移すと、瀬戸橋が架けられ、鎌倉と金沢は六浦道によって直結されます。これらの中世道の周辺には寺社・磨崖仏・やぐらなどが分布し、往時の歴史的景観を今に伝えています。 ※瀬戸神社については『埋文よこはま25』をご覧ください。

## 縄文土器 ドキドキ 黒曜石!?

今年の「横浜の遺跡展」は、縄文時代中期に焦点をあてて、土器と黒曜石を中心とした展示を行います。まず、前期最終末から後期初頭にかけての横浜市内の土器を選びすぎて多数展示します。また、「矢じり」などに多く用いられた「黒曜石」に関する展示も行います。黒曜石は伊豆諸島の神津島や、長野県の和田峠などから運ばれたものです。今回は現在進めている黒曜石の原産地分析の結果なども速報します。

→「横浜の遺跡展」の詳細は次項をご覧ください。



市内出土の優品を展示します!

# 催し物ご案内

## ○展示 平成24年度「横浜の遺跡展」

### 縄文時代中期の横浜

展示品 横浜市域の縄文時代中期遺跡出土の土器  
黒曜石の原石や「矢じり」など製品多数

◇会期：12月8日(土)～1月14日(月・祝)

◇会場：横浜市歴史博物館 企画展示室

※世界遺産登録推進事業「称名寺を掘る」展(仮称)と同  
時開催

◇観覧料：無料

## 関連イベント

### ・講演会「縄文時代中期の横浜」

展示に関連して、講演会を催します。

講師：建石 徹(文化庁 文化財部)

石井 寛(埋蔵文化財センター)

◇日時：1月12日(土)

13:30～16:15 (13:00開場)

◇会場：横浜市歴史博物館 講堂

◇定員：150名

◇費用：500円(資料代)

◇申込：往復はがきに講演会名・住所・氏名(ふりがな)・  
電話番号記入の上、右下の埋蔵文化財センター住  
所へ

◇締切：12月21日(金)必着

### ・フロアレクチャー(調査研究員による展示解説)

◇日時：12月15日(土) 11:00～、14:00～

1月14日(月・祝) 11:00～、14:00～

1回40分程度

◇会場：横浜市歴史博物館 企画展示室

◇費用：無料

◇定員：先着30名

◆神奈川県立歴史博物館でも縄文時代中期の展示が開催されます！

平成24年度ながわの遺跡展『さわれる、勝坂縄文展』

神奈川県立歴史博物館 12月15日(土)～2月7日(木)

→詳しくはホームページで！！

## ○講座 平成24年度「横浜の考古学」

横浜の土器を学ぶ—縄文土器から須恵器まで—  
縄文土器から古代の須恵器まで、横浜の土器を解説します。

11月8日(木) 縄文時代

- |                 |       |
|-----------------|-------|
| 1. 縄文土器研究と横浜の遺跡 | 石井 寛  |
| 2. 勝坂式から加曽利E式へ  | 山田 光洋 |
| 3. 称名寺式土器をめぐる   | 石井 寛  |

11月15日(木) 弥生時代～古代

- |                     |       |
|---------------------|-------|
| 4. 横浜の弥生土器—中期から後期へ— | 古屋 紀之 |
| 5. 横浜の土師器・須恵器       | 鈴木 重信 |

※講師4名は当埋蔵文化財センター職員です

◇日時：11月8日・15日(木) 2日間全5回

13:30～16:00 (13:00開場)

◇会場：横浜市歴史博物館 講堂

◇定員：150名(2日とも参加できる方)

◇費用：1,000円(資料代)

◇申込：往復はがきに講座名・住所・氏名(ふりがな)・  
電話番号記入の上、下の埋蔵文化財センター住所へ

◇締切：10月30日(火)必着

## ○体験学習

### たのしい勾玉づくりと拓本とり

青田石をけずって勾玉をつくり、本物の土器片を使って土  
器の文様を写しとります。大人だけの参加でもOK。

◇日時：12月22日(土)

午前の部 9:30～12:00

午後の部 13:30～16:00

◇対象：小学生以上

◇会場：埋蔵文化財センター 研修室

◇定員：午前・午後各15名(応募超過の場合は抽選)

◇費用：400円

◇申込：FAXか往復はがきにて、体験学習名・住所・氏名  
(ふりがな)・電話番号・参加人数・希望する時間を記の  
上、下の埋蔵文化財センターへ。必ず「埋文よこはま」  
を見て知った旨を明記してください。

◇応募期間：11月15日(木)～12月15日(土)

「埋文よこはま」は横浜市域で発掘調査された遺跡や出土した遺物を紹介する広報紙です。

## 埋蔵文化財センターのご案内

### JR根岸線「港南台」駅

2番バス乗り場より神奈中バス港36・86系統「上郷ネオポリス」  
行き、または港40系統「栄プール」行き、「上郷ネオポリス」下  
車徒歩1分

### 京浜急行「金沢八景」駅

国道沿い1番乗り場より神奈中バス金24・25系統「上郷ネオポ  
リス」行き、終点「上郷ネオポリス」下車 徒歩1分

・見学等の施設利用は、平日の9～17時となっています(受付16時まで)。

・施設利用にあたっては、事前にご連絡ください。

## 埋文よこはま26

発行日 2012年9月18日

編集・発行 公益財団法人 横浜市ふるさと歴史財団

埋蔵文化財センター

〒247-0024 横浜市栄区野七里2-3-1

TEL. 045-890-1155

FAX. 045-891-1551